

学校・保護者・地域が一体となった「生きる力の育成」

周南市立須々万中学校PTA

1. 学校地域の概要

P T A 会 長	:	江崎加代子
体育・文化後援会長	:	福原 雅之
学 校 長	:	蛸屋 芳己
生 徒 数	:	164 人
家 庭 数	:	141 世帯
教 職 員 数	:	14 人
所 在 地	:	〒745-0122 周南市大字須々万本郷 362 番地の 5
URL	:	www.shunan.ed.jp/susumachu/
E-mail	:	susumachu@shunan.ed.jp



(1) 地域の特徴

自然豊かな須々万地域は、周南市の北部標高 300m の高原に位置する。海岸沿いの市街地とは、4～5℃気温が低い
ため夏は涼しい半面、冬の寒さは厳しく降雪も多い。

古くから、瀬戸内と山陰を結ぶ交通の要地で、道路の整備に伴い、徳山・下松の市街地から車で 15 分、中国自動車道・鹿野 I C へも 20 分と交通のアクセスも良い。校区内には国の天然記念物「大玉杉」のある飛龍八幡宮をはじめ、沼城址など多くの史跡・名勝がある。



(2) 学校の特徴

校区内には、1 幼稚園、1 保育園、2 小学校、1 中学校（本校）、1 高校分校がある。学校運営協議会を核に、校種間の交流や連携を深めながら、地域に根差した教育を進めている。過疎化に伴い、周南市北部地域でも、小中学校の休校・廃校が進み、本校は、北部地域の中核の中学校として、地域からの絶大な支援をいただきながら、学校教育活動を進めている。特に、地域の方を指導者として、地域の伝統行事である「大名行列」を運動会に披露しており、今年で 23 年を数える。

少子高齢化は須々万地区でも顕著であるが、生徒数の減少は緩やかで平成 29 年度以降は 110 名台の生徒数で移行する。生徒は、純朴素直で、チャレンジ目標の一つ「あいさつは、自ら さわやかに 立ち止まって」に象徴されるように、礼儀正しい生徒が多い。家庭的な雰囲気の中で、どの学年も真剣に学習に励んでいる。部活動は大変盛んで、市内大会での上位入賞だけでなく、県大会や中国大会へも毎年出場するなど、人数の少ない中で、素晴らしい成績を収めている。文化部の活動も活発で、ボランティア部は様々なボランティア活動に取り組み、地域から大変感謝されている。さらに、生徒会活動も大変活発で、「須々万中しぐさ」「いじめ根絶アピール」など、自主的な活動に活発に取り組んでいる。また、校区が拡大されていく中で、それぞれの地元地域でも生徒は熱心に活動をしている。

校舎 3 階から見た須々万盆地の雲海



(3) 学校の目標

- 校 訓 : 剛健
- 学 校 教 育 目 標 : 人権尊重の精神を基盤として、豊かな心と確かな判断力を育み、たくましい実践力をもつ生徒の育成を図る。
- 求 め る 学 校 像 : ・行きたい学校 (生徒)
 ・行かせたい学校 (保護者)
 ・行ってみたいくなる学校 (地域)
 ・やりがいのある学校 (教職員)
- 求 め る 生 徒 像 : ・人間性豊かで思いやりのある生徒 (広い心・温かい心)
 ・よく考え、自らを高める生徒 (学ぶ力・創る力)
 ・最後までやり抜く、たくましい生徒 (生き抜く力・燃える心)
- 求 め る 教 師 像 : ・豊かな人間性と人権尊重の精神を身につけた人
 ・強い使命感と倫理観をもち続けることができる人
 ・生徒を共感的に理解し、深い教育的愛情をもっている人
 ・確かな学力を育成することができる人
 ・企画運営力や創造力豊かな人
 ・自己研鑽に励み、チャレンジ精神のある人
- チャレンジ目標 : ○ (教師で) 課題の期限内提出 “あたりまえ!”
 ○ (生徒で) あいさつは “自ら さわやかに 立ち止まって”

(4) 特色ある教育活動

① 「須々万中しぐさ」 (生徒会活動)

平成 22 年に生徒会の発案で生徒総会で承認された生徒心得。「他人への思いやり」・「よりよい学校生活の形」を「しぐさ」として推進していくもの。毎年、生徒総会で改訂を繰り返しながら現在は7つのしぐさを生徒主体で取り組んでいる。

あいさつしぐさ	あいさつは「自ら・さわやかに・立ち止まって」を心がける。
スリッパしぐさ	ホールやトイレではスリッパを手でそろえる。
ドアしぐさ	ドアを両手で静かに開け閉めする。
かばんしぐさ	ロッカーの通学カバンはチャックを閉め、きれいに置く。
イスしぐさ	立ち座りのとき、イスの音がしないように配慮する
廊下しぐさ	廊下では右側の3割を歩いて通行する。
黙想しぐさ	黙想の姿勢を正す。両足を床につけ、背筋を伸ばす。



各しぐさについては校内の随所に掲示して意識化



スリッパしぐさ

②活発な自治活動（生徒会活動）

上記の「須々万中しぐさ」の取組のように、生徒会活動が大変活発で、毎月の全校集会、生徒総会（7月）、文化祭など、生徒会が主体となって実施している。また、毎月の全校集会内で、「須々万中いじめ根絶アピール」を全員で唱和し、いじめの根絶に向けて、生徒主体で取り組んでいる。



③須々万中学習スタンダード

学習のきまりについては小中連携してなるべく共通事項を多くしている。

- 1 次の授業の準備をしてから休憩します。

休憩時間に次の授業に必要な勉強道具を机に出します

- 2 授業が終わったら勉強道具をかばんにしまします。
- 3 3分前に着席し、2分前から黙想を始めます。
- 4 大きな声で、語先後礼で挨拶をします。

①お願いします。

②ありがとうございました。

5 正しい姿勢の合図「ピン・ビタ・ゲー」で正しい姿勢で話を聞きます。



④須々万大名行列（後述）

⑤ひまわりプロジェクト

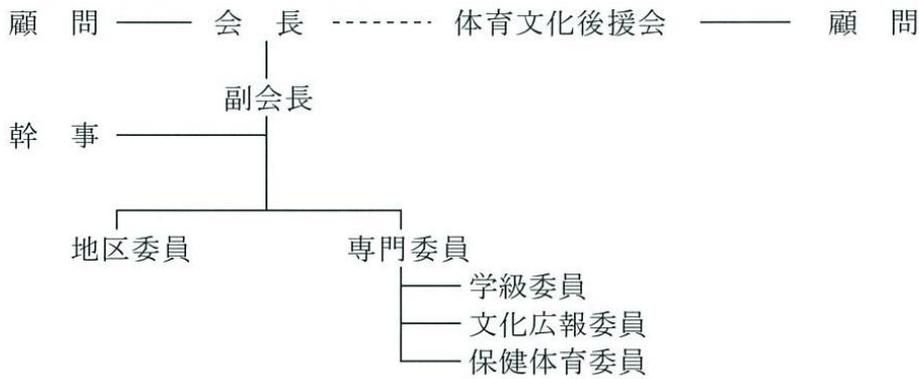
2年生とボランティア部員を中心に、東日本大震災の被災地からいただいたひまわりの種を植え、花を咲かせ、さらに、その種を採取し、校区内のさまざまな施設等に配布している。東日本大震災のことをいつまでも忘れない、心を寄せる、という願いで、豊かな心を育む教育を展開している。



2. PTA・体育文化後援会組織

(1) 組織図

①PTA



②体育文化後援会

会長（1名）— 副会長（若干名）

理事（若干名）、幹事（2名）、監査（2名）、顧問（若干名）

(2) 組織（PTA）

組織	構成員	主な活動内容	
PTA総会	全会員		
6役会（役員会）	PTA会長・副会長（若干名） 体育文化後援会長・副会長（若干名） 幹事（校長・教頭）	常任委員会の内容検討など、会長が必要と認めた時に開催	
常任委員会	6役（役員） 各委員長・副委員長 幹事（校長・教頭）	重要事項の審議、執行	
委員会	地区委員会（15地区17名）	学校、家庭、地域との緊密な連絡提携を推進するとともに、校外における生徒指導についての援助を主に推進	
	専門委員会	学年委員会（各学年3名）	学校教育振興への協力、援助を行うとともに、会員相互の研修と親睦の強化を主に推進する。
	文化広報委員会（各学年3名）	広報誌を発行し、会員の文化活動の強化を主に推進する。	
保健体育委員会（各学年3名）	生徒の心身の健康増進についての援助を行うことを主に推進する。		
監査	監査（2名）	会計及び監査	
幹事	校長 教頭 事務	庶務（事務） 会計	
顧問	顧問（若干名）	重要事項について相談	

3. 研究主題について

学校・保護者・地域が一体となった「生きる力の育成」

(主題設定の理由)

本校は地域の特性を生かし、学校・保護者・地域が一体となり、地域を基盤とした子どもの「生きる力の育成」に取り組んできた。特に、生徒は生徒会を中心に、地域に密着したボランティア活動・地域伝統行事への参加・東日本大震災復興事業の一環としての「ひまわりプロジェクト」を、保護者は一人一役でPTA活動に関わるとともに、地域の行事に協力することで地域と積極的に関わっている。学校統廃合で校区が広がり、地域活動も多岐にわたり、さらに少子化で生徒数も減少傾向であるため、PTA活動の一層の活性化を図っていききたい。

4. 活動内容

(1) 1年間の活動 (平成27年度)

月	日	行事	会長	6役	常任委員	PTA役員	一人一役	全員	議題・備考
4	14	監査	○						前年度監査
	16	新旧PTA6役会	○	○					組織・年間行事
	16	役員会	○	○		○			組織・年間行事
	23	学校運営協議会							副会長が委員
	24	PTA総会	○	○	○	○		○	組織・年間行事
5	14	常任委員会	○	○	○				研修視察
6	18	常任委員会	○	○	○				奉仕作業
	19	研修視察	○			学年委			保護者希望者
	28	子育て講演会	○			保体委			保護者希望者
7	10	地区懇談会	○			地区委			保護者希望者
	23	常任委員会	○	○	○				夏祭りバザー
	28	学校運営協議会	○						副会長が委員
8	8	夏祭り盆踊り	○	○		地区委	○		出店
	19	常任委員会	○	○	○				運動会
	22	八朔祭り				地区委			補導
	23	奉仕作業	○			学年委		○	
9	8	運動会	○			蹴端軀			バザー, 写真, 駐車場
	17	常任委員会	○	○	○				運動会反省, 文化祭
10	8	常任委員会	○	○	○				文化祭
	25	文化祭	○	○			○		文化祭
11	12	学校保健委員会	○			保体委			
	19	常任委員会	○	○	○				文化祭反省
1	15	6役会	○	○	○	○			次年度役員
	21	次年度役員選出会	○	○	○	○			次年度役員決定
2	3	学校運営協議会	○	○	○	○			副会長出席
	18	常任委員会	○	○	○	○			次年度役員委員

(2) 学校・保護者・地域が一体となった「生きる力の育成」

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会）（中学校コミスクは年3回、小中合同年2回）

学校運営協議会の委員には副会長に入っただけでなく、校務分掌組織・PTA各委員会・学校運営協議会部会を連動させ、三者が一体となって教育活動を展開している。

今年度は、小中合同学校運営協議会で、あいさつ運動活性化のために「あいさつ標語」を地域全体より募集することを決定し、実際に募集・審査・表彰を行った。



小中合同学校運営協議会。あいさつ活性化についての熟議

②地区懇談会（7月7日）

学校生徒指導部・PTA地区委員会・地域関係者（自治会長・コミスク委員他）と希望保護者が参加。

全体会にて、まず学校生活全般について、プレゼンを交え、校長及び生徒指導担当が話をを行った。学校の様子がよくわかると大変好評であった。

続いての分散会では各地区ごとに、学校より担当教員、各地区のPTA地区委員・各地域の住民及びそれぞれの地区の保護者が参加して、三者の連携を深める協議が行われた。

各地区での協議(上段)

校長による学校説明(下段)



③ふれあい夏祭りバザー（8月8日）

須々万地区盆踊り大会に生徒は会場準備・会場係・司会などでボランティアとして参加、バザーを中学校PTAとして出店、教職員もバザーの手伝いに参加し、地域の祭りを学校・保護者が連携して盛り上げている。特に、多くの生徒がボランティアとして参加し、地域の活性化に貢献している。PTAは役員と3年生で役員未経験者が協力をする。

夏祭りの司会を女子生徒2名が担当





PTAバザーは焼きそばを担当。教職員も手伝いで参加。

④大名行列

須々万地区に古くから伝わる「大名行列」に男子生徒全員が参加する。小学校より地域の大名行列保存会の方から指導をしていただいております。夏休み中に、練習を行い、運動会練習中にもしっかりと行って、運動会当日発表をする。午前中のメインプログラムで、運動会の目玉のプログラムであり、地域住民も保護者も大変楽しみにしている。PTAも運動会では売店を開き、側面からの援助を行っている。



地域の保存会



運動会当日

⑤ふれあい奉仕作業（8月23日）

8月にPTA学年委員会の主催で、校地内の清掃を生徒・保護者・地域と協力して実施する。校地が大変広いので、草刈り機や草運搬用の軽トラックを保護者や地域の方に提供していただいている。また、刈った草の処分も地域の方の私有地を利用させていただいており、保護者・地域が一体となって環境整備に尽力している。



地域(部団)別に分かれての作業。PTA会長あいさつ。



保護者や地域の協力はありがたい

⑥あいさつ運動

毎月14日、PTA学年委員会の主催で、地域の方（民生委員、児童委員など）、保護者（一人一役で1年間に1回は担当、PTA学年委員）、教職員で朝、あいさつ運動を実施している。地域の方や保護者との貴重な情報交換の場にもなっている。



(3) その他主要PTA行事

①研修視察（6月19日）

学年委員が企画し、例年、広島方面の工場などを視察に訪れている。例年30名程度の参加があり、保護者同士の貴重な交流の場ともなっている。

27年度は、広島市のオタフク工場を視察。



②運動会（9月8日）

PTAはバザー（保健体育委員会）、テント張り・駐車場整理（地区委員会）、広報用写真撮影（文化広報委員会）を協力する。



来賓受付は6役担当



駐車場整理は地区委員

③文化祭（10月25日）

バザーを担当。主に6役、PTA役員、3年生で役員未経験者がカレー作りやハンバーガーやパン、飲み物の販売を担当する。収益はPTAの貴重な財源となる。



特製カレーは毎年評判



体育館の様子はモニターで中継。保護者も大助かり

(4) 特色あるPTA活動

①PTA主体による役員・委員決定システム

ア. 原則

一人の生徒が3年間在籍する間に、最低1年(1回)はPTA役員を引き受ける。ただし、原則は「できることを、無理のない形で協力する」で、できる範囲での協力を共通理解する。

イ. 次年度役員決定までのシステム

A. 6役(会長・副会長)

- ・現6役が次年度6役を依頼・内定

B 地区委員

- ・旧委員に次年度地区委員選出依頼状配付。12月中に回収・決定
- ・地区委員はその年度のPTA役員は免除

C PTA役員(学年委員・文化広報委員・保健体育委員)…すべての次年度の役員決定

- ・12月に1・2年生保護者に次年度委員希望票及び委員選出会欠出票配付。
12月中に回収。教頭が集計。
- ・1月上旬に6役で調整し、1月下旬にPTA役員選出会開催。未決定役員を決定。当日参加者の希望を優先し、欠席者は6役に一任。

ウ. 特色

- ・執行部(6役)、地区委員、新2・3年の委員は年度内にすべて決定することで、新年度のPTA活動がスムーズにスタートできる(新1年生委員は入学式後に、選出)
- ・学級担任は原則、PTA役員選出には関わらない。(負担軽減。PTA主体の活動)

②一人一役で関わるPTA活動

原則は子ども一人につき、1回は卒業までに何らかの役員を引き受ける。

決して無理強いをするのではなく、できる範囲でできることをやるというスタンス。

3年間で一度も役員を経験しなかった保護者は「バザー委員」という名称で、夏休み中の夏祭りが文化祭バザーの手伝いをする。

執行部(6役)も複数制により、負担軽減と、次年度役員引継ぎ候補者を増やすことができる。

5. 成果と課題

(1) 成果

学校と保護者・地域が一体となって生徒の「生きる力」を育成している。保護者も地域の方も学校教育には協力的で、様々な機会に様々な形で援助をいただいている。平成24年度からはコミュニティ・スクールを核としてより連携を深めているところである。子どもたちは地域と保護者に育てられているという実感がある。

また、「全員が参加するPTA」を掲げ、①6役の複数制、②生徒の在籍する3年間に少なくとも1回は役員を経験する、③1年間に1回はPTA行事に参加するといった原則でPTAの改革を進めている。保護者の共働きで、特にPTA役員決定が難しいのは近年ではどこの学校も抱えている問題であるが、本校PTAでは「やれることをやれるときに」を前面に出して、保護者の負担とならないように活動を進めている。その結果、1年間を通して活発なPTA活動が展開できている。

(2) 課題

PTA役員に関しては、「一人一役」とはいえ、6役やPTA役員に負担をかけている面がある。趣旨の徹底を図り、子どもたちのためにできることを地域・保護者でしっかりと話し合うことが必要である。そのためにも、学校運営協議会との連携を深めていく必要がある。「地域総ぐるみ」で子育てを進めていくためにも、学校・家庭・地域が一体となつてのさらなる連携・協働が望まれる。